令和５年度も、校長室から日頃の「雑感」をお届けいたします。昨年度は沢山の生徒の皆さんに校長室に来ていただきお話を伺うことができました。今年度も、感想や談話等の内容を掲載させていただく予定ですので、ご笑覧いただけましたら幸いです。

One for all, All for one.　№98

R5.11.01　「沢山の思い出を持って帰校」

３コースに分かれて出発した見学旅行でしたが、それぞれが当初の予定通り４泊５日の旅を終え帰校しました。３コースとも天候にはほぼ恵まれ、異文化に触れ、仲間と共に過ごす中で多くの思い出を作ってきたようです。

見学旅行のように大集団で旅に出る機会はなかなかあるものではありません。それだけに思い出はいつまでも青春の証として記憶に残ります。ただ「楽しかった」の裏側には、行程を念入りに計画してくれた添乗員の方をはじめ、常に安心安全を確保してくれた引率の先生方、身近に寄り添い健康管理に携わってくれた看護師さん、現地を案内してくれた通訳の方など多くのサポートがあったことを忘れてはなりません。

私たちは表面的なものにだけに捉われがちですが、そうした裏側に思いを馳せることで違う景色が見えてきます。今回の見学旅行で皆が一段と大きく成長してくれていることを確信しています。

One for all, All for one.　№99

R5.11.07　「剣道部、秋季大会で団体・個人戦制覇！」

新チームで臨んだ剣道部が秋季大会で見事「団体優勝」を果たしました。部長が体調不良のため大会に出場できませんでしたが、その部長の分まで頑張ろうというチームメートの奮闘が好結果を生み出しました。

副部長の２年 吉田 圭佑君は「部長が出場できなくなり不安もありましたが、その分チームで力を合わせて頑張ろうというみんなの思いが勝利につながったと思います。目標としていた優勝杯を手にすることができホッとしています」と重責を果たした余韻が伝わってきます。

個人優勝に輝いた２年 伊藤 海斗君は「今大会は緊張することもなく普段の練習の成果を出し切ることができました。ここで満足せず全道につなげられるよう一層練習に努めます」とさらに高みを目指します。

チームの事務的管理も兼任している主務の２年 常石 朔也君は「仲間を信じ、支え合いながら、この勢いを全道につなげたいです」とチームとしての強い絆を強調してくれました。

１年生ながらにベスト８になった 村上 颯汰君は「剣道は中学から始めました。高校でのレベルの高さに気持ちだけは負けないよう最後まで集中して臨みました」と今後の成長が楽しみな言葉が返ってきました。

全道大会は年明けの１月、それまでにまた一段と逞しい剣道部が見られること間違いなしです。

One for all, All for one.　№100

R5.11.09　「見学旅行説明会」

生徒・保護者対象の見学旅行説明会を昼と夜の２部に分けて実施しました。

次年度も①沖縄コース、②台湾コース、③関西コースの３コースからの選択になります。どの行程も魅力的ですが、最も大切なのは生徒の安全安心の確保です。

担当する旅行業者には、行程だけでなく感染症対策や保険内容についての説明もお願いしました。

高校生活最大の行事だけでに１年をかけて準備を進めていきます。全生徒が楽しく良い思い出が作れるよう、今後も生徒や保護者の皆様には詳細をお伝えしていく予定ですが、ご不明な点がございましたら、お気軽に担任までご連絡願います。

One for all, All for one.　№101

R5.11.14　「系統・学科別分科会」

先頃「見学旅行」を終えたばかりの２年生が、いよいよ「進路希望実現」に向け本格的に始動しました。

このガイダンスは、様々な業種に精通したプロの皆様から具体的な業務内容ややりがいをご講義いただき、生徒の就業意識をより啓発してくことを目的にしています。

就職希望者のみならず、専門的知識や資格が必要な業種には進学が必須となるケースもあることから、大学・専門学校・看護・公務員の講座等も用意しました。

将来を真剣に見据え、道筋を明確にし、必要な取組や目標を持つことを生徒には期待したいです。

目標を持つ取組と持たない取組では、その「質」に雲泥の差が生ることを念頭に、これからの高校生活をさらに充実したものにして欲しいです。

One for all, All for one.　№102

R5.11.15　「インターアクト」

本校には「インターアクト部」という、主に社会奉仕を中心に活動している部活動があります。募金活動、地域清掃活動、SDGs 関連活動、障がいを知り共に生きる活動、児童生徒への支動活動など、その取組は多岐にわたります。

先日、同じ活動に携わる全道の高校生が遠軽で一堂に会しました。参加者を代表して、２年生の 草刈 遥翔君、湊　心花さん、内藤 いずみさんにお話を伺いました。

「部員数は２０数名いますが、他の部と兼ねている人もいるので、その都度参加できる人で活動しています。子ども食堂のお手伝いや障がいをもつ方々との触れ合い、児童館での子どもとの遊びなど、様々な人と接する機会があります」と教えてくれました。

草刈君は「多くの人との出会いを通して、色々な立場から物事を多角的に見たり考えたりするようになりました」と、活動を通して視野が広がったと話します。

湊さんは「活動を重ねる中で、自分にできることがまだまだあることを知りました。どんな些細なことでも社会貢献につながれば嬉しいです」と、言葉の端々から思いやりの気持ちが伝わってきます。

内藤さんは「初めて行く場所で新たな出会いがあり、経験したことない体験や身近にない文化や風土に触れることで、自分が成長できればと思います」と、強い向上心を感じさせてくれました。

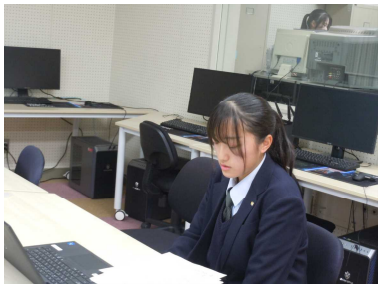
今回の話を聞き、改めてインターアクト部の取組に敬意を表するとともに、３名の生徒の皆さんの豊かな心に触れることができ、とても清々しい気持ちになりました。

One for all, All for one.　№103

R5.11.15　「校内オンライン」

２年生はオンラインで電子黒板を活用し、これまでの教育活動の成果を発表しました。今回発表してくれたのは８月に短期海外研修で韓国水原市を訪れた 備中 こころさんと、９月に龍谷総合学園の研修会に参加した 木下 恵斗君、髙桑 温子さん、竹内 日葵さんの

４名です。（※詳細は８月、９月の「校長室から」に掲載しています）
　どちらの発表も内容が充実しており、説明もわかりやすく丁寧でしたので、在校生も関心深く画面に見入り、話に聞き入っていました。



　学校ＤＸを推進していく上での第一歩となりますが、研修を受けた生徒自身も取組を振り返ることでより深い経験や知識として脳裏に刻まれます。また経験したことのない在校生にとっては今後の大きな関心事となっていくことと思います。
　ICT を有効に活用しながら学習や教育活動の幅を生徒自身が広げていくことで、未知なる大きな期待がさらに広がります。

One for all, All for one.　No.104

R5.11.15　「校内職業体験」

　本校では進路に関わるガイダンスを多数行っていますが、中でも生徒に好評なのが、「職業体験型ガイダンス」です。１年生キャリアデザインコースを対象に、道内約 20 校ほどの大学や専門学校から講師をお招きし、それぞれの学部や学科での活動内容を具体的に説明いただき、体験を通してより理解を深めました。
　ＩＴ関係、インテリアデザイナー、スポーツインストラクター、理学療法・作業療法、保健福祉・社会福祉、看護、臨床検査・臨床工学、救急救命、ブライダル、調理・製菓、美容・理容、教諭、獣医、トリマー等々、多様な職種から将来の目標に直結するものを選び、説明や体験を受けました。

　学部・学科名や職名こそ知っていても、取り組む内容まで詳しく理解している生徒は意外に少ないものです。将来、ミスマッチを起こさないためにも、このような体験型ガイダンスを継続していきたいと考えます。

One for all, All for one.　No.105

R5.11.22　「表敬訪問」

　全国高等学校駅伝競走大会に 12 年連続出場（8 年連続 11 度目の全道優勝）を決めた女

子駅伝部が、年末に控える都大路での全国大会出場の報告を兼ねて、旭川市長のもとに表敬訪問に赴きました。

副主将の３年生 益塚　稀さんが代表し、全国大会への意気込みとチームが掲げる目標をお伝えしてきました。今津市長様からも、全道大会活躍へのねぎらいの言葉と全国に向けた熱い応援メッセージをいただき、選手共々心より感謝しております。

全国大会は 12 月 24 日（日）京都都大路を舞台に開催されますが、出場に当たり多くの皆様から温かなエールを沢山頂戴しております。

選手も皆様のご期待に応えられるよう日々懸命に練習に励んでおりますので、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

One for all, All for one.　№106

R5.11.24　「郷土研究部」

15 日（水）から釧路市で行われた「全道高等学校郷土研究発表大会」に参加してきた３年 野瀬　暖人君と ２年 高橋　司君のお二人からお話を伺いました。

本校の郷土研究部は古くから上川のアイヌ文化を研究し、その内容は道内外で高く評価され、これまでも数々の賞を受賞してきました。

部長を務める 野瀬君は「小学生の頃のよさこいの衣装にアイヌ文様が施されていて、その美しさから関心を持つようになりました」と、入部時の経緯を話してくれました。それ以降本格的な研究に没入し、今後は大学でも研究を続けるとのことです。一つのことに真摯に向き合い造詣を深めていく野瀬君の姿が実に眩しく見えました。

また、高橋君は「今回の発表では、私たちのように歴史研究に基づくものだけでなく、郷土に古くから伝わる太鼓や踊りといった伝統芸能なども披露され、どの学校も素晴らしい内容でした」と全道大会ならではの醍醐味を話してくれました。

時代とともに薄れゆく郷土文化を、全道の高校生が色褪せることのないよう大切に守り続けてくれていることの意義はとてつもなく大きいものと改めて実感しています。

One for all, All for one.　№107

R5.11.27　「柔道部が連覇！」

今月 10 日に開催された「全国高等学校柔道選手権」支部大会で、男子が見事団体優勝６連覇を達成しました。ここ数年着実に力をつけてきた柔道部が団体戦・個人戦で見事な戦いぶりを見せ、来月の全道大会に向け弾みをつけました。

定期試験を終えたばかりのメンバーに話を伺うことができました。２年生箕浦 裕斗君

は昨年度の同大会個人戦無差別級で優勝経験を持つ実力者。「立技はもちろん寝技を強化することで全体のレベルアップを図ってきました。全道では部員全員の力を結集し全道制覇をねらいます」と、チームを束ねる主将らしい頼もしい言葉が返ってきました。

今大会では１年生の活躍も光りました。団体戦決勝では４名の姿がメンバーに入ります。

小山内　太陽君は「緊張もありましたが、これまで磨いてきた寝技を生かし、先手をとる試合運びができたことが良かったです」と振り返ります。

藤野　遥士君は「相手によって立技と寝技を上手く使い分けることができました。小学３年生から柔道の魅力にはまっています」と、それまで続けてきた空手（黒帯）で培った俊敏な動きが柔道にも生かされているようです。

また、１年生ながら夏の支部大会でも見事な活躍を見せた　木幡　斗吾君は「今大会では慎重になりすぎ技が後手にまわり、焦りにつながるという課題も経験しました。全道では平常心を忘れず冷静な試合運びを心掛けていきます」とさらなる高見を目指します。

今大会で大将という重責を務めた　合田　颯琉君は「相手を恐れることなく、先に技をかけていくことに徹しました。今後は一流選手の組手を研究し、常に有利な態勢を作っていけるよう努めます」と研究熱心な姿勢が伝わってきます。

「怪我をしないよう集中力を切らさず、万全な状態で全道に臨みます」と箕浦主将の言葉どおり、メンバーの表情には「全道優勝」という固い決意が伺われました。

One for all, All for one.　№108

R5.11.28　「幼児教育」

３年生のキャリア研究「幼児教育」で、今年もきくし幼稚園の皆さんが本校を訪れてくれました。将来保育系を進路希望に持つ生徒が、園児たちの目線でお話をさせていただいたり、手をつなぎ一緒に校内探検ツアーでスタンプ集めをしたりしながら楽しい時間を過ごさせていただきました。

可愛らしい園児たちの笑顔に誰もが癒され、明るく元気な声にパワーをもらいました。生徒手作りの「スタンプラリー達成メダル」に園児たちの明るい歓声も沸き起こります。

園児は遊びを通して自主性や問題解決能力を育み、他者との関りから社会性を身につけていきます。同時に、生徒はコミュニケーション能力を育み、安心安全の確認の重要性、目線を合わせた言動の効力などについて学びます。

触れ合う体験を通して、お互いが「考える力」「判断する力」「創造する力」「敬う力」など、様々な学びを共有していきます。

学校全体が和やかな空気に包まれた心地よい時間となりました。本校では、他にも介護福祉、各種企業訪問、進路ガイダンス等を通じてキャリア教育を推進しています。

R5.11.29　「on-lineで研修報告」

１年生の LHR を活用し、今年の夏、韓国水原市（スウォン市）に短期海外研修に赴いた 尾崎 花恋さんの報告会を実施しました。

グローバル化が進む中、海外の文化に触れ、視野を広げることは高校生にとって大変貴重な経験になります。

旭川市が主催する姉妹都市水原市への短期海外研修に本校からも２名の生徒が参加し、異文化を体験する中で多くのことを学んできました。

今回の発表では、歴史、風土、高校生との交流、食文化、施設見学、ショッピングに至るまで、韓国の文化の奥深さや素晴らしさを写真を交えてわかりやすく丁寧に紹介してくれました。

異文化を理解し、尊重し、そこに暮らす人々と交流することで、視野が広がり豊かな心を育んでいきます。

グローバル社会に生きるということは、相手の生活や環境、考え方や感じ方などを少しでも理解し合い、敬い合い、寄り添い合う中で、国際社会に貢献していくことだということを多くの生徒の皆さんに体感して欲しいです。